

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202023
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ こもれび
所在地 (電話番号)	静岡県静岡市葵区大岩4-34-17 電話番号 054-247-2916
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月19日

【情報提供票より】(19年06月04日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 4 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.62 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (65,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(6月4日現在)

利用者人数	16 名	男性 6 名	女性 10 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.8 歳	最低 70 歳	最高 88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	静岡厚生病院・勝又内科医院・つかもと歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立法人(株)日本ケアクオリティが標榜する「街の中。暮らしの場」に相応しいホームである。賤機山の南東の懐に抱かれ、近くに城北公園や天徳院・臨濟寺等を擁し、名のおり「こもれび」の中での安らぎを感じさせる。ホーム長の素晴らしいリーダーシップと職員の連携の下に、家庭的な環境の下で利用者本位の介護が実践されている。
しかし、運営推進会議の開催はこれからであり、地域住民との交流を図り、益々地域密着型のホームに成長されることが望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は、今回が初めてである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価に対する意義を理解し、改善に対する取り組みは前向きであるが、自己評価に対する取り組みは、全員参加とはいえない。自己評価表作成にあたり、職員全員で参加することが、事後の評価結果の活用や改善に役立つものと考えられる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はまだ実施されておらず、現在準備中である。 地域との連携の実質は素晴らしいものがあるので、早急に実施することにより、更に大きな成果が期待される。先ず運営推進会議を開催し、更に市町村との連携を深めて頂きたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見・苦情等の外部・内部の苦情相談窓口が、重要事項説明書に明記されている。月次報告や家族来訪時に利用者の要望に耳を傾け、必要な事項はカンファレンスで取り上げ、運営に反映させている。 利用者の生活振り等が、ホーム便り「こもれび」や居室担当者からの月次の報告で的確に報告されており、家族からも喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームは自治会に加入し、一般的には珍しく自ら組長を務めており、町内会や学校行事への参加を積極的に行っている。運営推進会議の開催により、一層の地域との連携が図れるものと期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人会社の基本理念を基に、開所前から職員全員で検討したものであるが、現時点の介護保険法の趣旨に照らして十分であるかどうか、再検討を要する。	○	地域密着型の理念は、「家庭的な環境」とともに、「地域住民との交流」が求められている。その観点からの見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現理念「心やすらぐ、あたたかな陽だまりの家」も立派な理念であり、事務所やホーム便りにも掲載して、共有化と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、一般的には珍しく自ら組長を務めており、町内会や学校行事への参加を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対する意義を理解し、改善に対する取り組みは前向きであるが、自己評価に対する取り組みは、全員参加とはいえない。	○	自己評価表作成にあたり、職員全員で参加することによりGHに期待されていることを共有でき、事後の評価結果の活用や改善に役立つものと考えられる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ実施されておらず、現在準備中である。	○	地域との連携の実質は素晴らしいものがあるので、早急に実施することにより、更に大きな成果が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議もこれからであり、市町村との連携もこれからである。	○	先ず運営推進会議を開催し、更に市町村との連携を深めて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り「こもれび」や居室担当者からの月次の報告で、利用者の生活振りが的確に報告されており、家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部・内部の苦情相談窓口が重要事項説明書に明記されている。月次報告や家族来訪時に利用者の要望に耳を傾け、必要な事項はカンファレンスで取り上げ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時にホームに相応しいかどうかを見極め、ホーム長の指導により職員の定着を図り、居室担当制により利用者との馴染みの関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部の勉強会を開催し、外部への研修も参加を呼びかけているが、年間の研修計画は、作成されていない。 できているから、取り組みを期待したい項目に変更	○	職員の希望も取り入れ、そのレベルに相応しい職員個々の年間研修計画の策定が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会からの実習を受け入れたり、同業者との相互訪問による実習勉強会の開催に努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの情報を基に、先ず言葉掛けに注意を払い、馴染みの食器の使用・スーパーへの買物・できるお手伝い等をして貰いながら、徐々に雰囲気に慣れるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	保存食の作り方を教えてもらったり、各種の行事やアクティビティの折に浪曲・演歌・お手玉等を一緒に楽しみ、支えあう努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話や家族等からの情報の中から、利用者の生活歴や趣味・意向を収集して日々の支援に取入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスにおいて、利用者個々の情報を持ちより協議し、職員間で共有している。変化の多い利用者については1週間のサイクルで随時協議し介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合、利用者・家族等・関係機関に報告し、検討しているが、時間がかかり対応が遅れ気味とのことであった。しかし前向きに努力しているので、対応方の工夫とOJTにより、即応できるようになると思われる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2～3週間に1度は「心の医療センター」に訪問看護を依頼し、利用者の精神面のサポートをしており、精神疾患と認知症の紙一重の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者16名の内、10名は従前からのかかりつけ医が対応し、6名は当グループホームの提携医に依頼し、2週間に1度の診察を受け、薬を受領している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体的に症状の軽度な利用者が多いので、切羽詰まった利用者はないが、1人について家族と主治医、病院と打合せ、方針を決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報は個人別にファイルし、家族等以外閲覧できないようにしてある。利用者の尊厳を傷つけるような行為等については職員が気配りし、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を主役として“利用者が自力で実現できない希望・夢をサイドから支援して、可能な限り実現できるように”との姿勢で対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーマーケットに行くことのできる利用者は、一緒に外出して店頭で食事の希望を聴いて対応している。外出の難しい利用者には、前日希望を聴いて翌日に備えている。料理の得意な利用者は料理を手伝い、現有能力に応じて片付けなどを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂等希望に沿って対応している。風呂の嫌いな利用者や身体に触れさせない利用者も居るが、諦めず気長に声掛けをし、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者・家族等から生活歴・趣味特技の情報を収集して、現有能力に応じてサイドから支援している。とりわけ元調理師や飲食業勤務の利用者は活躍している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	比較的軽度の利用者が多いので、食材の購入、散歩、ドライブ等努めて外出に誘引している。また施設が自治会に加入し、組長ををも引受けていて、自治会の行催事にも積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室については利用者の希望を取入れ、外からは施錠していないが、利用者の一人が銀行の営業時間内には一人で銀行の窓口に出かけてしまう習性があるので、玄関からリビングへの出入口には簡単な施錠がされていた。		家族の諒解を得て行われている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、グループホーム独自の訓練を実施しているが、地域の協力を得る体制は築かれていない。	○	夜間の場合、各ユニットに1人の夜勤者であるので非常事態発生時、全員の避難誘導は難しいことから、地区の自主防災組織に加入して、非常時の応援体制を確立したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については、1日ペットボトル(500cc)2本を目安に管理している。カロリーについては栄養のバランスには努めているが、管理栄養士がいないため数値化できていない。	○	季節ごとに年4回程度は管理栄養士に依頼して調理者の調理癖(偏向性)をチェックしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は快適な状態である。リビング、廊下等の壁には利用者の作品等が目線を考慮して賑やかに飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も清潔に保たれている。利用者の希望に副ってところ狭しというほど家具、冷蔵庫など持込まれている部屋もあった。ある祖父の部屋にはかわいい孫の写真が何枚も飾られていた。		